

平成28年度 福岡医療短期大学・明倫短期大学の大学間交流活動 「学生 IR 調査」実施報告書

1. 概要

- ・実施時期：平成 28 年度 後期開始時
- ・対象学生：
福岡医療短期大学 歯科衛生学科 3 年次 98 名 [回収率：100% (98 名/98 名中)]
明倫短期大学 歯科衛生士学科 3 年次 71 名 [回収率：100% (71 名/71 名中)]

2. 取組の趣旨

学習支援や教育支援、及び教学評価などの教学支援組織を通じ、高等教育の質を保証・向上させる方策の具体化が求められている。そこで今回、学生の学修成果を多面的に評価し、高等教育の質保証システムの創出と教学支援組織のさらなる育成を目指すことを目的として、当該「学生 IR 調査」を実施した。さらに、明倫短期大学との大学間交流協定に基づき、専門教育等に関する共通の設問事項を用いた質問紙調査を実施した。

3. 結果の概要

A) 全般的な学習状況、B) 課外学習、C) 学生満足度を含めた教育の質保証、の 3 つの観点に基づき、結果の概要を報告する。

A) 全般的な学習状況（専門教育、アクティブラーニングを含む）

(1) 専門教育の実践

- ・「学内実習、学外実習などを実施し、学生が体験的に学ぶ経験 (p4, II-7-A)」や、「仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ経験 (p4, II-7-B)」が「あった」と回答した学生は、両大学とも 9 割を超えていた。特に、明倫短期大学は、福岡医療短期大学と比べ、(p4, II-7-A) と (p4, II-7-B) に対する最上位の回答である「ひんぱんにあった」の比率が高い状況であった。
- ・福岡医療短期大学においても、臨床実習等のインターンシップ教育プログラムを体系的に実施しているものの、(p4, II-7-A) と (p4, II-7-B) に関する肯定的な回答比率は経年変化(平成 26～28 年度)においても 6 割程度にとどまっている。
- ・教育内容に関する満足度について、「専門教育の授業 (p33, V-21-A)」に対して、両大学とも肯定的な回答比率が 7 割程度を、「将来の仕事と授業内容との結びつき (p35, V-21-E)」について、福岡医療短期大学が 7 割弱、明倫短期大学が 8 割の学生が「とても満足」「満足」との回答が得られた。
- ・しかしながら、「授業の全体的な質 (p34, V-21-C)」では、両大学で肯定的な回答比率は 6 割程度に留まっている。
- ・(p34, V-21-C) について、福岡医療短期大学の経年変化(平成 26～28 年度)においても大きな変化は認められない。

(2) ライティング、レポート課題

- ・「学生自身が文献や資料を調べる (p5, II-7-E)」に関する肯定的な回答比率は両大学とも7～8割、「定期的な小テストやレポート課題 (p6, II-7-F)」に関する肯定的な回答比率は両大学とも9割を超えており、福岡医療短期大学の経年変化(平成26～28年度)においても平成28年度が最も高い肯定的な回答比率であった。
- ・しかしながら、「教員から提出物に添削やコメントをつけて返却される (p6, II-7-G)」に関する肯定的な回答比率は、明倫短期大学が8割弱であるのに対して、福岡医療短期大学では5割程度に留まっており、経年変化(平成26～28年度)においても伸び悩んでいる。

(3) アクティブ・ラーニングを通じた学習

- ・「学生が自分の考えや研究を発表する (p6, II-7-H)」、「授業中に学生同士で論議をする (p7, II-7-I)」、「授業で検討するテーマを学生が設定する (p7, II-7-J)」について、大学間で差が認められた。
- ・「自分の考えや研究を発表する (p7, II-7-H)」の肯定的な回答比率は、福岡医療短期大学が6割強に対し、明倫短期大学は5割弱、「授業中に学生同士で論議をする (p7, II-7-I)」と「授業で検討するテーマを学生が設定する (p7, II-7-J)」では福岡医療短期大学が6割と4割程度のところ、明倫短期大学はともに3割前後と低かった。
- ・福岡医療短期大学の経年変化(平成26～28年度)において「授業中に学生同士で論議をする (p7, II-7-I)」における肯定的な回答比率が3割、4割強、6割と増加傾向を示している。

B) 課外学習

- ・「授業課題のために Web 上の情報を利用した (p9, II-8-B)」の肯定的な回答比率は、両大学とも8割程度と高い一方、「授業のために図書館の資料を利用した (p9, II-8-A)」は両大学とも4割程度に留まっている。
- ・一週間あたりの「授業時間以外に授業課題や準備学習、復習をする時間」に関する質問項目 (p14, II-9-B) では、両大学とも「6時間以上」の回答比率は4割程度に留まるとともに、「全然ない」「1時間未満」の回答群が2割程度存在している。
- ・(p14, II-9-B) に関する福岡医療短期大学の経年変化(平成26～28年度)では、「6時間以上」の回答比率が増加するとともに、「全然ない」「1時間未満」の回答比率が低減傾向を示している。

C) 学生満足度を含めた教育の質保証

(1) 欠席・遅刻数および授業への興味・関心

- ・「授業を欠席した (p11, II-8-G)」や「授業を遅刻した (p11, II-8-H)」について、「ひんぱんにした」「ときどきした」と回答した学生は、福岡医療短期大学では経年変化(平成26～28年度)において6割程度から3割程度に低減しているものの、明倫短期大学では2割前後と低い傾向が認められた。

- ・「授業をつまらなく感じた (p11, II-8-I)」や「授業中に居眠りをした (p12, II-8-J)」について「ひんぱんにした」と回答した学生は、両大学とも1割程度存在している。

(2) 教育の質の保証

- ・授業内容の満足度に関して、「専門教育あるいは所属学科の授業(p33, V-21-A)」と「所属学科の学内実習や学外実習(p34, V-21-B)」について、福岡医療短期大学では経年変化(平成26～28年度)を通して「不満」「とても不満」と回答した学生が若干名存在していたが、明倫短期大学では「不満」「とても不満」と回答した学生はいなかった。
- ・「p34, 授業の全体的な質(V-21-C)」については、福岡医療短期大学の経年変化(平成26～28年度)を含め両大学とも「不満」と回答した学生が若干存在していた。
- ・入学時点と比較した「専門分野や学科の知識」の変化に関する質問(p18, II-10-C)に対して両大学の若干名が「変化なし」と回答していることや、「学外での実習に意欲的に取り組んでいるか(p26, III-12B)」について「どちらでもない」を含む否定的な回答比率が福岡医療短期大学において2割強、明倫短期大学において1割強存在している。

4. 結果の活用について

今回、両大学共同で学生 IR 調査とその集計を行い、介護福祉士と幼稚園教諭・保育士を養成する学科間(ともに2年次)の IR 調査について結果の概要を取り纏めた。学生 IR 調査は、学修成果の可視化の一つの手段であるため、今後その分析や結果の解釈を進めることで、さらなる教学支援組織の強化や入試選抜方法の見直し、教育・研究、学生支援の改善等を通じて、今後の教育の質保証・向上に取り組んでいく予定である。

以上